

一般

質問

外資による森林買収の防御について

質問 森林資源、水資源をどう守るか。森林法の改正による効果はどうか。

答弁 水道水の保護という中で水道企業団として条例の制定は、しばらく様子を見たい。法改正により届出義務が必要となり、その周知を続けよう。

7・29豪雨災害復旧と今後の計画等について

質問 五十嵐川、鹿熊川の災害復旧計画、流域の来春の作付け、したたふるさとの祭りの会場の復旧はどうか。

答弁 江口、田屋は今年度中に改修工事に着手、曲谷から落合にかけては全箇所工事発注済み。来春は24ha、残り3haは26年作付けの見込みである。祭りの会場は今年の開催日までに災害前と同規模で復旧の予定である。



豪雨災害復旧現場(鹿熊川)

通学路の安全対策について

質問 スクールバスの利用を再度見直し、グリーンベルトの設置、ゾーン30の見解はどうか。

答弁 地域の状況を勘案しながら通学路の把握に努め、関係機関と連携して対応していきたい。

介護保険サービス未利用者に対する敬意について

質問 地域振興などと併せて大谷地和紙を使い、書はシルバー人材に委託し感謝状で表してはどうか。

答弁 具体的に検討したい。

小中一体校建設工事の周辺住民への配慮等について

質問 工事中地震のような揺れが連続し、土埃で洗濯物も干せないなど、影響が出ている。周辺住民への配慮はどうか。

答弁 ダンプなど通過の際は徐行を徹底し、土埃は散水車等に対応。周辺整備後は金属製のフェンスを設置する。苦情問い合わせの窓口は教育総務課に置く。



小中一体校建設工事現場

質問 通学バス、児童クラブ、太鼓などについて、開校準備委員会での協議状況はどうなっているのか。住民の意見は聞けるのか。

答弁 現在計画を協議中。今後必要であればパブリックコメントも検討しよう。

TPPにおける食育と地産地消について

質問 TPPは外国企業が学校給食にも参入でき、安全基準、食品添加物の緩和も求められる。三条市は食育の推進と農業の振興に関する条例を作り食育に力を入れてきたが、TPPに参加すると地産地消の学校給食も守れなくなる。TPP参加への反対を表明すべきではないか。

答弁 外国産が入ってきて、三条農産物を使用し地産地消を進めていく。TPP参加によってその姿勢が揺らぐものではない。

三条市農業の現状と課題について

質問 生命産業たる農業は経済価値を超える意義を持つ。農地・水・環境保全事業と地域農政プランおよび24年度産米の作付動向についての取り組みはどうか。

答弁 活性化プランで地域農業の良いところのアピール、見える化を行っている。食育を通じた地産地消から流通へと拡大し、広い意味での

質問 空き店舗対策の効果と創業塾開講の狙いは何か。

答弁 空き店舗事業者が中心市街地活性化に関するさまざまな活動に参加している。三条ツアーマップ等は注目され、取り組みを市内外にPRできた。単なる出店以外に十分貢献いただいている。創業塾は、中小企業診断士、金融機関、先輩創業者を講師に創業への指導を行う。既存出店者には個別相談を実施し、創業、出店、出店後の一連の支援で長く地元へ愛される店づくり、そこに集う多くの市民との相乗効果を図っていききたい。

震災瓦れきの広域処理の課題について

質問 市の説明会、学習会について反省点はないか。県と市の見解の違いが大きい。低線量被曝晩発性障がいについてどう考えるか。最終処分地の問題



景観と環境をまもる共同草刈作業(井栗地域資源保全会)

プランドの推進につなげる。保全管理事業は28年度までの5年間で、対象面積が増加となる。マスタープランは集落単位の取り組みを予定して協議を進めている。生産調整の県間調整はその都度募ってきたが単価調整もあり追加配分に至っていない。下田地域の集落間調整はおおむね協力が得られている。

点はどうか。

答弁 正しい知見で冷静な判断のために行ってきた。低線量の発がんリスクの確率は証明することが困難。処分地のデータ公開と水質検査はこれから追加しよう。

震災瓦れきの受け入れについて

質問 市民の生命と財産を守ることが市長の務めである。数年後に土壌汚染、水質汚染など放射能による不利益を受けた時の市長の責任と覚悟について聞く。市民の声を聞く場がない。市民の不安の払拭のために市民対象の説明会を開き、市長自ら説明する必要があると思うが考えを聞く。

答弁 震災廃棄物について市民がどう思うか、形ではないが自分なりに空気感を感じてきた。不安の払拭のために市民と向き合い進めよう。

元日マラソン大会参加者の費用負担のあり方について

質問 元日マラソンはなぜ無料なのか。23年度決算で約166万円。これには職員人件費等は含まれていない。

答弁 より大勢参加してもらうために無料にしている。それが参加数の増加につながっている。

中心市街地活性化について

質問 あいでん出店後、地元商店街連営のコンパクトストアは今後どうなるのか。今年度、国からの補助金は不採択となったがその影響はどうか。

答弁 自主運営を目指すべきたが、2次募集があれば申請を検討し、来年度以降は現行の補助制度を研究したい。売上げ、客数の落ち込みは現実だが、販売管理費の節減に努め、全体としての営業利益確保を目指している。今後の改善策はさまざまな意見交換をしていきたい。



平成24年元旦マラソン大会



コンパクトストアまごころ